

## 妊娠期におけるドメスティック・バイオレンス

カタオカ ヤエコ\* ヤジウユ カリ<sup>2\*</sup>  
片岡弥恵子\* 八重ゆかり<sup>2\*</sup>  
エトウ ヒロミ<sup>3\*</sup> ホリウチ シゲコ<sup>3\*</sup>  
江藤 宏美<sup>3\*</sup> 堀内 成子<sup>3\*</sup>

**目的** DVの程度を測定する尺度である日本語版ISAを用いて、妊娠期女性のDV被害割合を明らかにし、DVのリスクファクターとして背景因子との関係および精神的な健康への影響を探索する。

**方法** 都心部の1か所の総合病院の産婦人科に通院する妊婦に対し、2003年2月から5月継続的に研究協力依頼を行った。研究依頼時（妊娠14週位）にGHQ30、自尊感情尺度、背景調査用紙、妊娠35週以降に妊娠中の状態を反映させるためにDVの程度を測定する日本語版ISAを実施した。

**成績** 279人から有効回答が得られた。日本語版ISAにより、妊婦279人中15人（5.4%）がDV陽性と判定された。日本語版ISAの下位尺度である身体的暴力は9人（3.2%）、非身体的暴力は12人（4.3%）であった。DVのリスクファクターとしては、経産婦であること（OR=3.9）、過去の身体的暴力（OR=9.1）の2点が明らかになった。またDVの精神的な健康に及ぼす影響については、一般的疾患傾向、睡眠障害、不安、うつ傾向、自尊感情との関連が認められた。なかでもうつ傾向は、DV陽性の妊婦に約12倍多い（OR=11.5）という結果であった。

**結論** DVは妊婦の約5%、つまり20人に1人の割合であり、決して稀なことではないことがわかった。女性の健康に及ぼす影響も危惧されるため、医療においてDV被害の早期発見に向けてのスクリーニング、介入、連携体制を整えることが急務である。

**Key words** : ドメスティック・バイオレンス, 配偶者虐待, 妊産婦, 有病率, リスクファクター, 精神的健康

---

\* 聖路加看護大学 看護実践開発研究センター  
2\* 東京大学大学院 疫学・予防保健学分野後期博士課程  
3\* 聖路加看護大学  
連絡先：〒104-0045 東京都中央区築地 3-8-5  
聖路加看護大学 看護実践開発研究センター  
片岡弥恵子